

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

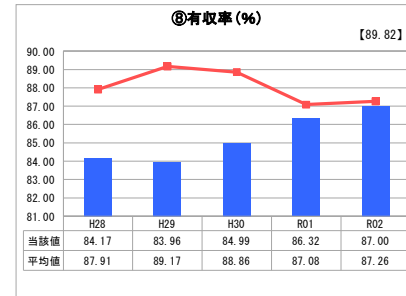
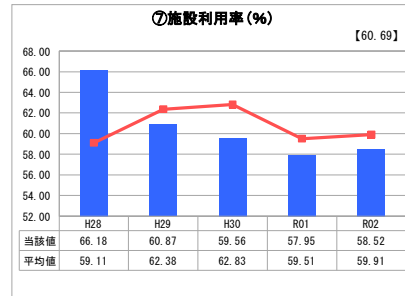
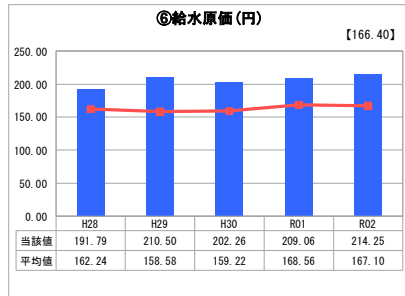
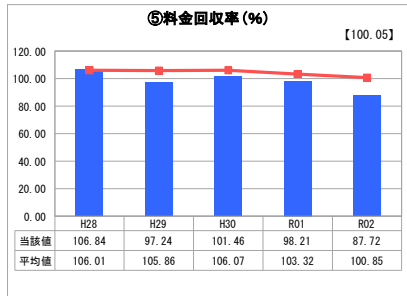
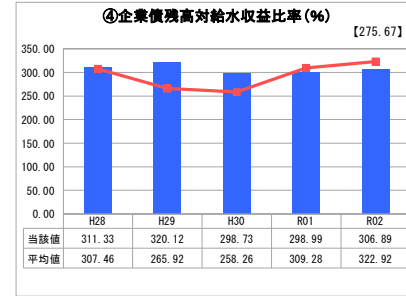
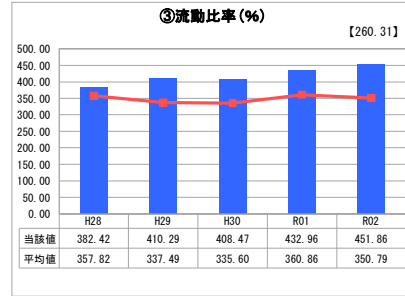
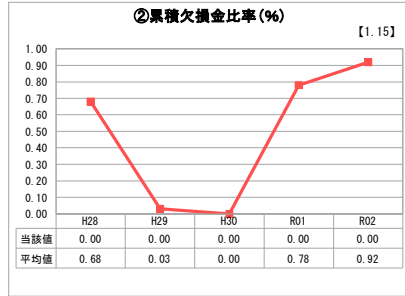
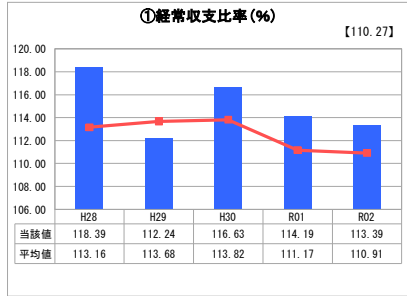
岡山県 津山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	78.29	99.39	2,530	

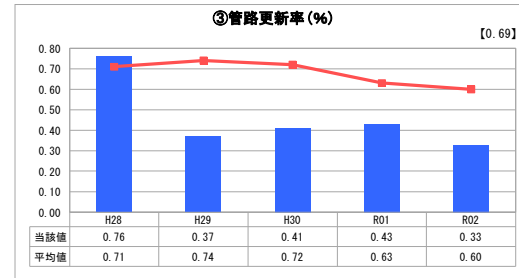
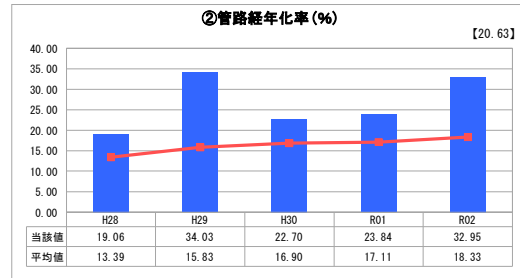
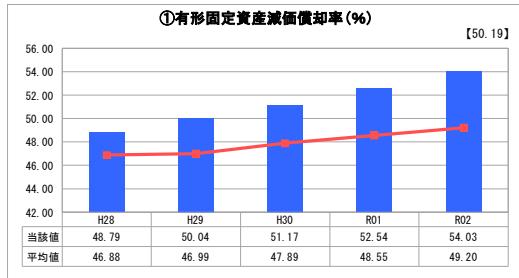
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
99,821	506.33	197.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
98,709	205.67	479.94

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[ ] 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、引き続き100%を上回っており健全性が保たれ、類似団体と比べても同程度を維持している。
- ②累積欠損比率は、引き続き0%であり、健全である。
- ③流動比率は、類似団体と比べても高い値であり、健全性は保たれている。
- ④企業債務高対給水収益比率は、類似団体平均を下回っているが、経年比較では類似団体と概ね同程度の値で推移している。
- ⑤料金回収率は、平成29年度の簡易水道事業統合以降、類似団体と比べ低い値となっており、100%を下回っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、基本料金の減免を行ったことが率低下の要因となっている。
- ⑥給水原価は、おおむね横ばいでの推移であったが、簡易水道事業統合により若干上昇した。経費節減には努めていくが、地形・地勢的な問題もあり、今後も同様の傾向が続くと見込んでいる。

- ⑦施設利用率は、類似団体と同程度であるが、給水人口の減少などに伴う配水量の減少により、低下傾向にある。
- ⑧有収率については、類似団体と比較低い値が続いていたが、漏水対策などにより同程度まで向上している。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較高い値となっており、類似団体と同様に、上昇傾向にある。
- ②管路経年率は、類似団体に比べ高い値で推移しており、対策が急がれる状況は変わっていない。
- ③管路更新率は、依然低い状況にあるが、平成30年に改定した「水道ビジョン」に基づき、計画的に更新を進めていくこととしている。

## 全体総括

経常収支比率、流動比率ともに類似団体と比べ高い値で推移しており、現時点での健全性は保たれているが、今後、人口減少に伴う給水量の減少が見込まれ、経営状況は厳しさを増すものと考えている。一方で、有形固定資産減価償却比率、管路経年率ともに類似団体より高く、上昇傾向にある。「水道ビジョン」に基づき、管路等更新事業の着実な推進を進めていく必要がある。